

公益財団法人富山第一銀行奨学財団
理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 :	400 千円
研究代表者 : 三宮千佳	所属 : 芸術文化学部	職位 : 講師
研究題目 : 高岡市瑞龍寺仏殿大権修理菩薩の研究		

研究概要

富山県高岡市に位置する高岡山瑞龍寺は、加賀藩 3 代藩主前田利常が造営した曹洞宗の寺院であり、その禅宗様式の壮麗な建築の山門・仏殿・法堂により、平成 9 年県内で唯一国宝指定を受けた名刹である。この江戸時代 17 世紀半ばに建立された、国宝の仏殿内の東隅に、禅宗の守護神である大権修理菩薩が安置されている。本研究は、この大権修理菩薩を中心としながら、前田利常および綱紀による瑞龍寺造営の意図や本質を検討するものである。

この大権修理菩薩については、平成 26 年 10 月から 27 年 1 月にかけて行われた、有限会社彩色設計による彩色復元修理の際に、以下の 3 つの銘文が新たに発見された。これらの銘文の内容により、大権修理菩薩が、加賀守の寄進（時期からすると前田綱紀）で、明暦 4 年（1658）、京都の仏師吉野右京（種次）によって制作（完成）されたことが判明した。この制作年代と仏師の情報を手がかりに、前田家と吉野右京との関係、また吉野右京が残した京都の作品や鎌倉に残る大権修理菩薩像との比較検討を行った。

成果要約

なぜ前田家は京都の流行仏師吉野右京に制作を依頼したかについて、文献調査においては、前田家と京都の文化サロンとのつながりに着目した。それによると、前田利常は、徳川幕府に恭順の意を示すために、文化振興に積極的であったようである。つまり加賀藩の財政は幕府の脅威になるような武器の生産や戦の準備のために使わないという姿勢を徳川に見せ信頼を得るためにあえて文化に財力を投じていったという背景があった。利常は特に後水尾天皇の「寛永文化サロン」を資金的に援助し、相国寺、大徳寺などで活躍していた狩野派絵師（特に狩野探幽）、茶人の小堀遠州などあらゆる分野の当代一流の芸術家や文化人のパトロンとなった。おそらくは、その京都での利常の活動と人的ネットワークにより、やはり当時相国寺や大徳寺に作品をおさめた吉野右京を紹介されたことが分かった。また、瑞龍寺には狩野派の作品も残されているが、おそらくはこのような寛永文化サロンのつながりで奉納されたものと思われる。

また、仏師吉野右京の作例を検討するために、相国寺・大徳寺・妙心寺・醍醐寺などでの調査を行い、また大権修理菩薩像の作例を調査するために、鎌倉の建長寺、円覚寺、鎌倉国宝館、覚園寺、海蔵寺を訪れ、大権修理菩薩像の検討を行った。各寺院に残されている作例の様式の検討からも、吉野右京は、肖像彫刻が得意であったことが分かる。すると瑞龍寺の大権修理菩薩像も、鎌倉に残されているほかの作者の大権修理菩薩像と比べて、面部は仏像というより当時の吉野右京の肖像彫刻と共通点があり、さらに通常の大権修理菩薩像の体躯のバランスよりも現実の人物像に近いバランスを示していることを指摘したい。現在引き続き、瑞龍寺の江戸時代（17 世紀）の制作といわれる、希元道元頂相像や広山恕陽頂相像の調査を依頼しており、頸部などの銘文調査も含めて吉野右京の作例かどうかの調査を予定しているが、もし吉野の作例であれば、瑞龍寺との関係がさらに明らかになってくるとと思われる。

<p>研究成果 発表状況</p>	<p>【雑誌論文、学会発表、図書、新聞掲載、作成 Web ページ、特許権等の出願・取得状況】 前田利長忌記念講演「瑞龍寺の仏像について」（於瑞龍寺、平成 28 年 5 月 20 日） 論文は平成 29 年度の紀要に投稿予定。</p>		
<p>経費の 執行状況</p>	<p>区 分</p>	<p>執行額（円）</p>	<p>備 考</p>
	<p>【物品費】 研究図書 27 件 デジタルカメラ、付属品 USB メモリ他消耗品 【旅費】 2016 年 9 月鎌倉調査 2017 年 2 月東京調査 2017 年 2 月京都調査 【謝金】 【その他】</p>	<p>小計 258,270 円 172,512 42,120 43,638 小計 141,730 円 43,470 55,840 42,420</p>	
	<p>合計</p>	<p>400,000 円</p>	